

## 令和7年度 学校評価アンケート結果分析(生徒)

### 1. 教育目標と生活指針の定着

学校目標の認知度: 学校目標「夢の追求」の認知度は 98.3%(肯定的回答 A)と極めて高く、学校の目指す方向が生徒に完全に浸透しています。

生活指針「あじはみそ」: 指導への注力に対する認知は 96%、生徒自身の意識も\*\*94.4%\*\*が肯定的であり、学校の文化として深く根付いています。

### 2. 高い満足度を示している項目

特に以下の項目において、生徒の肯定的な評価(A+B)が 9 割を超えており、学校への信頼感と充実感が読み取れます。

学校行事への意欲: 行事に熱心に取り組んだ生徒は\*\*96.8%\*\*に達し、学校生活の大きな活力となっています。

登校の充実感と人間関係: 「楽しく登校している(92.4%)」「人間関係が良好(93.6%)」と、心理的安全性と社会性が高く保たれています。

安全・安心の確保: いじめの早期発見(92.2%)や安全環境づくり(94.9%)について、高い評価を得ています。

### 3. 今後の課題と検討事項

肯定的な回答が多数派であるものの、相対的に「C(あまり十分ではない)」「D(十分ではない)」の割合が 1 割を超えている項目に、今後の改善のヒントがあります。

学習習慣の確立: 「家庭学習に取り組んでいる」に対する否定的回答は 31%(C+D)と全項目で最も高く、授業の充実度(肯定派 93.9%)をいかに家庭学習へ繋げるかが課題です。

相談体制のさらなる周知: 「悩み相談のしやすさ(否定派 16.8%)」や「スクールカウンセラー(同 15.8%)」は、他の項目に比べるとやや課題が残ります。

注記: 思春期特有の心理的ハードルも考慮しつつ、よりカジュアルに相談できる環境づくりや周知の工夫が求められます。

「夢」への具体的アプローチ: 目標は知っているものの、実際に夢に向かって頑張れているという実感は\*\*82.5%\*\*に留まります。認知度(98.3%)とのギャップを埋めるためのキャリア教育の充実が期待されます。